

IV. (4) 海外からの留学生とのワークショップと校外研修

今年度長期留学生

平成 31 年 3 月 23 日(土)

今年度の長期留学生はタイのオスカーさん。オスカーさんはタイのバンコク近郊にあるパトゥムターニー県出身。ホームステイ先は能勢町にある農家民宿“みちくさ”のオーナーである三上さんで、毎日そこから自転車通学となった。

初登校の日、職員室で挨拶をした後、入学式に出席し、全生徒を前に自己紹介をした。オスカーさんは2年生のクラスに参加し授業も一緒に受けながら、能勢町住民の日本語ボランティアの先生方による、日本語の授業も受けた。日本のアニメが大好きで、タイでは出版されていない漫画がたくさん読めると喜んでいて、また、ドラムや料理など趣味がたくさんあるそうだ。クラブ活動は弓道部に入部。

今年度も能勢高校・能勢分校の国際交流の1ページが刻まれた。



能勢町里山保全活動「菊炭と里山を未来につなぐ植樹会」

平成 31 年 4 月 13 日(土)

◇ 場 所：能勢町荒木谷

桜が満開の素晴らしい快晴の中、能勢町・荒木谷の里山にて里山保全フィールドワーク『菊炭と里山を未来につなぐ植樹会』に、3年SG重点分野講座受講生7人、2年グローバルスタディ(GS)課題探究重点講座受講生9人、タイ留学生オスカー、卒業生1人の18人が参加した。このフィールドワークは、能勢高校近隣の菊炭の里(大阪能勢田尻菊炭振興協議会)が主催しており、昨年に引き続きの参加となる。今回は一般の参加者40人を迎える前に、高校生はスタッフとして里山・荒木谷に入り植樹の準備を行った。

一般参加者が到着後は5グループに分かれ、クヌギの原木を植えていく。獣害防止のネットで囲い、最後は杭を打って完成である。足場の悪い斜面での作業は大変だったが、100年後の成長に想いを馳せながら作業をした。今回は『Air茶室』という新しい試みがあり、山頂に丸太で即席の茶室が作られ、妙見山などの絶景を眺めながらお抹茶とお菓子をいただいた。菊炭と茶道のつながりを学ぶことができ、植樹活動の合間にほっと一息つくことができた。植樹活動後に、地元の方々が羽釜で炊いたご飯で手作りカレーを食べた。

里山を降りた後は、「能勢さとやま創造館」に移動し、菊炭の販売やウッドワーク体験を行い、炭焼師・小谷義隆氏のお話を聞き、解散した。この植樹活動が能勢の里山のシンボルとなるよう、地元の多くの方々が様々な形で参加していることが良くわかった。これからもこの植林活動に関わり、未来へつなげていきたい。



ピースマーケット能勢 2019

令和元年 5 月 26 日(日)

◇ 場 所：淨るりシアター

3年SG重点分野講座受講生3名、2年GS課題探究重点講座受講生12名と留学生1名が参加した。朝から能勢高校のSGH活動や昨年度の鳥取県・モンゴルの実態調査のパネル展示の準備から始まり、開会中は、3年生のモンゴル実態調査を行ったチームと、2年生のシュタットベルケについて研究を行ったチームが、ロビーの特設ステージで課題研究発表を行った。この発表は聴衆を前にしたプレゼンテーションで、多くの市民の方々が発表を聞いてくれた。能勢高校の他に箕面市や豊中市、宝塚市の市民団体の方々の発表もあり、「じ



ぶん発電」「小水力発電」「日本版シュタットベルケ」「縮小社会」など、どれも非常に興味深いテーマでの発表だった。その後に行われたアクションランチ（意見交換会）では、市民団体の方と直接話をする事ができ、発表のとき以上に詳しいことが聞けるだけでなく、自分の意見や考えを求められる場面もあった。その後、再びロビー特設ステージにて、「今日一日で学んだこと」としての発表があり、能勢高校生の吸収力に、聴衆の方からは驚きの声も上がっていた。

大阪大学にてプレゼンテーション

令和元年7月16日(火)

◇ 場 所：大阪大学

昨年度指導を受けた大阪大学准教授の今岡良子先生の大阪大学共通教育講義「学問の扉」に参加し、3年 SG 重点分野講座受講生4名、2年 GS 課題探究重点講座受講生3名が、大阪大学学生たちと交流した。

3年生は昨年度モンゴルを課題研究のテーマに取り上げ、実際に現地で実態調査を行っており、その課題研究を発表した。2年生はシュタットベルケについての課題研究と9月に赴くドイツ視察研修について発表した。

大阪大学の受講学生は学部や出身地はさまざまな1回生16人、SGH指定高校出身者も多く、親近感が湧いた。発表のあと、高校生と大学生が一緒になり、3グループに別れて『地方創生には教育が重要か』、『能勢町にシュタットベルケは持ち込めるか』、『再生可能エネルギーとは』についてディスカッションを行った。また、学生の出身地での地方創生など、さまざまなトピックについて話し合った。能勢高生・分校生が、阪大生とともに「学問の扉」を開く素晴らしい時間だった。



海外実態調査「マレーシア サバ州」

令和元年8月4日(日)～9日(金)

※IV. (3)海外実態調査 参照

森の中の講演会

令和元年9月8日(日)

◇ 場 所：能勢町荒木谷

能勢菊炭クラブ主催で、能勢町荒木谷の森の中で畠山重篤さんによる『森の中の講演会』が行われ、3年 SG 重点分野講座・2年 GS 課題探究重点講座受講生11人が参加した。畠山さんは、宮城県気仙沼市の蠣養殖家であり、NGO「森は海の恋人」代表、京都大学教授でもある。その活動は小学校社会科や高校英語の教科書にも掲載され、ケネディ前駐日大使も離日前に畠山さんを訪ねたそうだ。荒木谷は能勢高校から車で5分ほどの場所にあり、毎年植樹活動に参加するなど、能勢・能勢分校生にも馴染み深い場所である。



参加者は丸太のイスに腰掛け、畠山さんの講演を聴講した。その後、2、3年生が夏に行ったマレーシア実態調査、ドイツ視察調査の報告を行った。森の中、パソコンはなく、口頭だけでの報告は初めてだったが、ひとりひとりが自分で見てきたこと、感じたことをしっかり話すことができた。マレーシアでは森林伐採について、ドイツでは環境保護について調査してきた生徒たちにとって、能勢町の森を守るために何ができるのかを考える機会となった。

公立鳥取環境大学 英語村入村体験

令和元年10月7日(月)

◇ 場 所：公立鳥取環境大学

※IV. (5)「外国語教育」の取組み 参照

サラヤ(株) 大阪工場訪問

令和元年 10月15日(火)

◇ 場 所: サラヤ(株) 大阪工場

3年 SG 重点分野講座受講生1名が消毒剤や洗浄剤、医薬品、食品を製造する化学・日用品メーカーを訪問した。サラヤ(株)とはSGHで5年間連携しており、今回は特別に工場見学をすることができた。マレーシアのパームオイルから液体洗剤や石鹸が作られ、パッキングされるまでの工程を見学した。もともと見学会を行う施設ではないので、運搬中のフォークリフトなどに気配りしながらの見学となった。

国内外の工場の内容、役割などの説明、サラヤの歴史など、工場の次長から説明を受けた。サラヤは「いのちをつなぐ SARAYA」をスローガンに、「衛生、環境、健康」を基本理念に事業を展開している。大阪工場では、少量多品種を生産しており、全自動ではなく手作業の工程もあった。令和2年には関東工場もオープンする予定だ。海外からの技能実習生も32名も働いていた。マレーシアではボルネオ環境緑保全プロジェクトを、アフリカのウガンダ工場では現地での医療衛生に取り組み、衛生啓発活動を行っており、多彩なアイデアとグローバルな取組みで、企業活動を広げている。

参加した生徒は今年の8月にマレーシアへオイルパームプランテーションの調査に行っており、能勢町の地域活性化をテーマに研究を行っている。今回の見学を踏まえ、さらに課題研究を深めた。



「能勢の高校を応援する会“町ぐるみ応援団”」総会

◇ 場 所: 浄るりシアター小ホール

令和元年 10月26日(土)

※V. (1) SG 重点分野講座受講生徒: 課題研究成果発表・普及 参照

2019 草原の風モンゴル祭り (在大阪モンゴル国総領事館主催)

令和元年 11月2日(土)

◇ 場 所: 大阪市鞆公園

在大阪モンゴル国総領事館、関西モンゴル人会などが主催のモンゴル祭りに3年 SG 重点分野講座受講生2名とタイとモンゴルの短期留学生2名が参加した。参加した3年生は、昨年モンゴルで実態調査を行っている。

大阪大学今岡先生の指導のもと、ウランバートルにある子どもシェルター児童保護施設「魔法の城」へのチャリティーを目的とし、マグネットとシールを販売した。たくさんの購入があり、それだけでなく募金の申し出や、モンゴル総領事の協力があり、多くの支援が集まった。留学生2人は突然ファッションショーの出演にスカウトされ、モンゴルの民族衣装で登場し、良い経験となった。



会場では日本の相撲やモンゴル相撲、馬頭琴の演奏が披露され、クイズ大会が行われるなど大いに盛り上がっていた。集まった寄付はこの日、参加していたモンゴル短期留学生在が、帰国直後にウランバートル「魔法の城」を訪ね、届けた。

能勢高校の活動を知ってもらい、国際貢献もできた一日となった。

とよのまつり

令和元年 11 月 9 日(土)・10 日(日)

◇場 所：豊能町西公民館

※V. (1) SG 重点分野講座受講生徒：課題研究成果発表・普及 参照

SGH 全国高校生フォーラム I N 東京

令和元年 12 月 22 日 (日)

◇場 所：東京国際会議場

※V. (1) SG 重点分野講座受講生徒：課題研究成果発表・普及 参照

◆今年度受け入れた留学生◆

今年度は長期、短期合わせて3名の留学生を受け入れた。能勢高校生とともに学び活動し、交流をはかった。

- ・通称〔名前〕：国籍(母語)
- ・オスカー〔Kasidech Rattanabankruay カスイデック・ラッタナーバンクルアイ〕：
タイ王国(母語：タイ語)
- ・ナダー〔Nada Keeratitakoon ナダー・ギーラティトラクーン〕：タイ王国(母語：タイ語)
- ・フセレン〔Khuslen Batkhuu フセレン・バトフー〕：モンゴル(母語：モンゴル語)



(左からオスカー、ナダー、フセレン)

IV. (5) 「外国語教育」の取り組み

これまで行ってきた英語プレゼンテーション講座と英語科の授業をリンクし、英語で考えをまとめ、文章を作り、発表するというサイクルを継続発展させ、英語運用能力の向上をめざした。また、英語検定試験のような外部試験も積極的に取り入れ、試験前に対策講座や勉強会を開いて生徒の意識を高めた。

これらの学習は、海外から本校を訪問した高校生との交流会や、本校の留学生を招いた特別授業やワークショップで実際に実践する場を設け、学習の定着を図るとともに「英語を話す」ことへの心理的障壁を取り除いた。

- ① 英語プレゼンテーション講座、英語ディベート講座
- ② SG 基礎知識講座（留学生を招いての英語授業）
- ③ 校外活動（大学主催英語村参加、海外高校・大学での英語プレゼンテーション等）

■①英語プレゼンテーション講座、英語ディベート講座

「英語プレゼンテーション講座」

令和元年7月13日（土）

◇ 講師：谷村 博美（たにむら ひろみ）氏

◇ 講座内容：

能勢在住で日本文化修復技術を仕事としている谷村博美さんを講師として迎えた。谷村さんは能勢とオランダを幾度も行き来し、オランダにも住み、英語とオランダ語を話すことができる。本校の「再生可能エネルギーと能勢版シュタトベルケ」の取り組みに興味を持ち、能勢町・能勢分校共催の講演会にも参加した。

谷村さんの授業では、グローバルな話から、英語での自己紹介、自分自身を英語で語るコツなどを学んだ。自己紹介は、何度も繰り返し練習した。また、来年度本校への短期留学を希望するドイツ ハンブルグ在住の高校生ヤン君が来校し、講座に参加した。

講座終了後、9月のドイツブリロン市視察調査参加の生徒4人が、ヤン君家族からドイツの習慣、文化や現状を聞き、意見交換を行った。



「英語プレゼンテーション講座」

令和元年7月29日(月)

◇ 講師：ナットチー・直子（なおこ）氏

能勢町出身。アメリカ・カンザス州の大学にて、10年間日本語を教える。平成30年2月に帰国後、能勢町で暮らす。

◇ 目的：

英語でプレゼンテーションを行うための総合的な力を養成すること。特に海外実態調査や修学旅行で海外の大学や高校で英語による課題研究プレゼンテーションが予定されているので、それに向けて準備と発表練習をする。

◇ 講座内容：

8月4日～8月9日に実施されるSGHマレーシア海外実態調査の準備として、マレーシアで行う英語プレゼンテーションの練習と、フィールドワークでの聞き取り調査に必要な英語学習を実施した。プレゼンテーション練習では、発音のチェックからパワーポイントのスライドの効果的な説明などの指導があった。また、オイルパームプランテーションでの聞き取り調査などでは専門的な英単語も必要となるので、聞き取り調査に使う単語の意味や発音の確認をした。マレーシアへ出発する日も近いので、緊張しながらも真剣に学習に臨んだ。



■②SG 基礎知識講座（留学生を招いての英語授業）

「留学生プレゼンテーション」

令和元年7月1日（月）

◇ 講 師：オスカーさん（タイ留学生）

◇ 講座内容：

オスカーさんは今年度能勢高校にやってきた長期留学生である。彼の出身地であるタイについて、高校生らしい視点で紹介した。

※3年 SG 基礎知識講座④

■③校外活動（大学主催英語村参加、海外高校・大学での英語プレゼンテーション等）

「マレーシア サバ州 海外実態調査」 令和元年8月4日(日)～9日(金)

※IV. (3) 海外実態調査 参照

「公立鳥取環境大学 英語村訪問」

令和元年10月7日（月）

※3年 SG 重点分野講座

◇ 講 師：中橋 文夫（なかはし ふみお）氏 公立鳥取環境大学教授、英語村スタッフ

◇ 講座内容：

3年 SG 重点分野講座受講生2名、2年・1年 GS 課題探究重点講座受講生13名と短期留学生2名が公立鳥取環境大学にある英語村へ入村し、英語活動を行った。

英語村は英語コミュニケーション力をつけることを目的に、大学のキャンパス内に設けられており、フィリピン、スーダン、フィンランド、イギリスからの5人の講師の先生と1時間30分、オールイングリッシュで活動をした。まず、生徒による能勢町紹介、ドイツ調査、マレーシア調査の英語プレゼンテーションを行った。その後、フィンランドの先生から「卒業後も能勢町に住みたいか」や、スーダンの先生から「日本で栽培できず、熱帯雨林破壊につながるパームオイルを何故使い続けるのか。他の植物油でいいのではないか」など、プレゼンテーションに対して鋭い質問が投げかけられ、これに英語で返答した。プレゼンテーションの後、グループトークを行い、1対1でのインタビューなど英語漬けの時間を過ごした。

午後は、中橋文夫教授による「世界のランドスケープ」の講義を受けた。マレーシア、ドイツのプレゼンテーションも行い、アドバイスをもらった。



講座振り返りアンケート

英語プレゼンテーション講座を受講した2、3年生に対し、講座の振り返りアンケートを行った。

[SGH 英語プレゼンテーション講座 振り返りアンケート]

1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまりそう思わない 4. 全くそう思わない

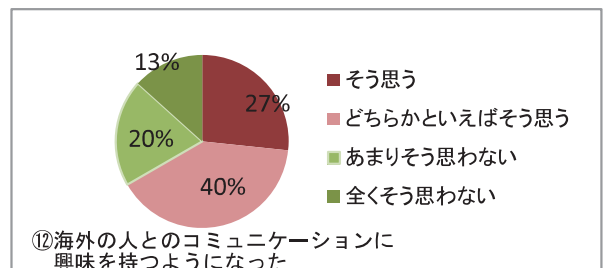
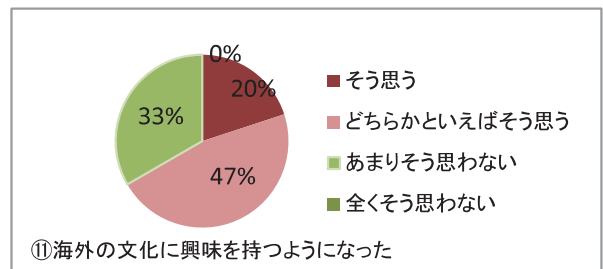
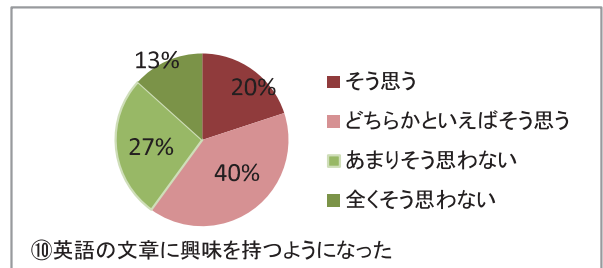
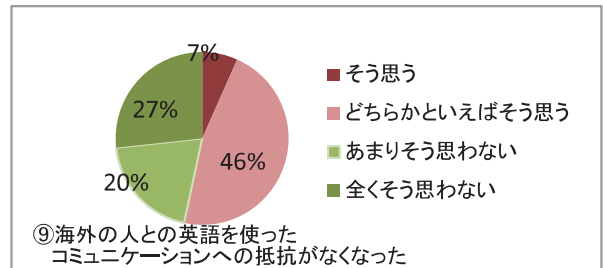
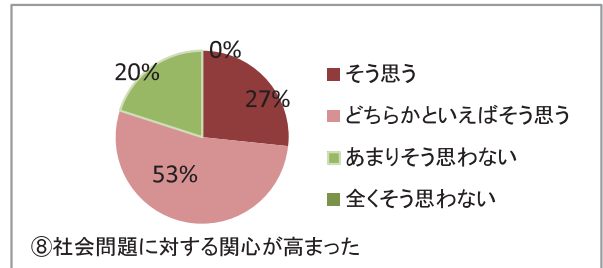
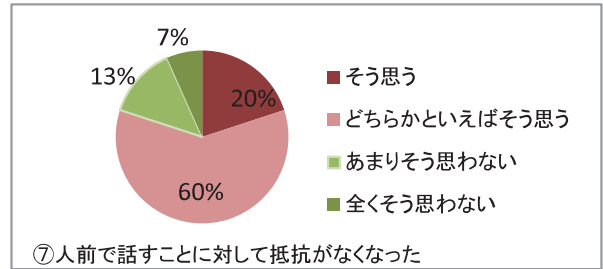
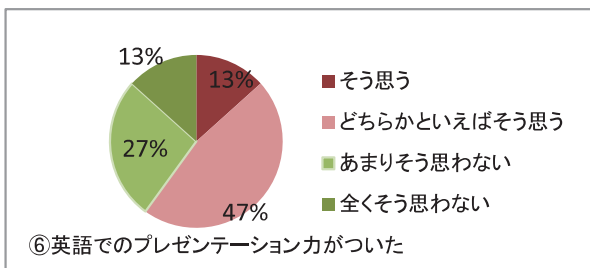
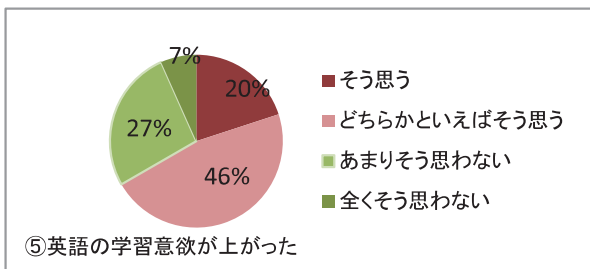
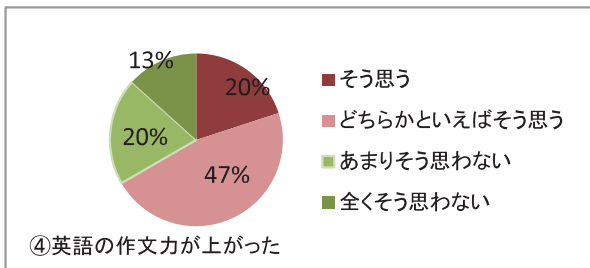
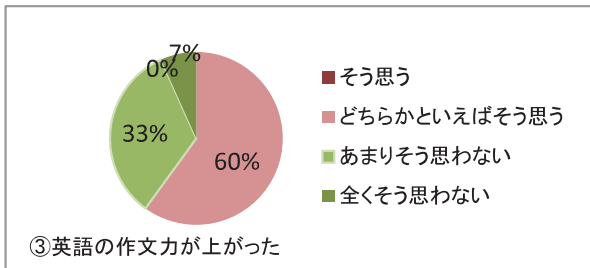
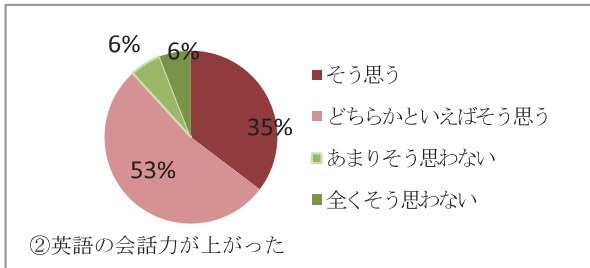
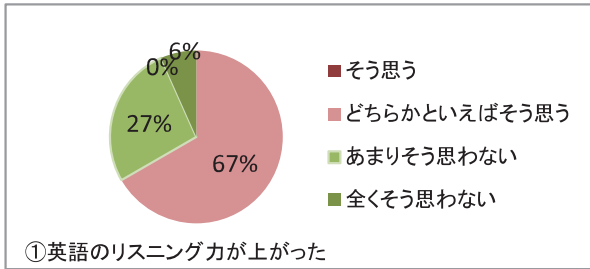
1	英語のリスニング力が上がった。	1	2	3	4
2	英語の会話力が上がった。	1	2	3	4
3	英語の作文力が上がった。	1	2	3	4
4	英語の文章を読み取る力が上がった。	1	2	3	4
5	英語の学習意欲が上がった。	1	2	3	4
6	英語でのプレゼンテーション力がついた。	1	2	3	4
7	人前で話すことに対して抵抗がなくなった。	1	2	3	4
8	社会問題に対する関心が高まった。	1	2	3	4
9	海外の人との英語を使ったコミュニケーションへの抵抗がなくなった。	1	2	3	4
10	英語の文章(新聞、雑誌、ネット記事)に興味を持つようになった。	1	2	3	4
11	海外の文化に興味を持つようになった。	1	2	3	4
12	海外の人とのコミュニケーションに興味を持つようになった。	1	2	3	4

英語プレゼンテーション講座の「振り返りアンケート」分析

英語プレゼンテーション講座を受講した2、3年生に実施した英語プレゼンテーションの振り返りアンケートの12項目について質問した中で、肯定的な回答のあった5項目について考察した。

- ◇「Q1 英語のリスニング力が上がった」については、「そう思う+どちらかというと思う」の回答が94%に達している。ゲストスピーカーによるスピーチを聞く機会があったことや、英語プレゼンテーション発表練習でお互いの英語を聞く機会も多かった結果であると思われる。また、SGH 海外実態調査でマレーシアやドイツを訪れ英語による聞き取り調査を実施し、世界の様々な英語と直接触れる機会がリスニング力向上に大きな効果があったと考えられる。
- ◇「Q2 英語の会話力が上がった」については、「そう思う+どちらかというと思う」の回答が88%に達している。英語プレゼンテーション講座で少人数グループでの英語での発表練習や質疑応答を練習したことにより、たとえ不完全でも英語で自分の考えを表そうという態度が育成され、自信をもって英語を発信できるようになったためだと考えられる。
- ◇「Q3 英語の作文力が上がった」については、「そう思う+どちらかというと思う」の回答が93%に達している。プレゼンテーション作成の段階で、英文資料を読んだりインターネットの英語ページなどを調べたりした後で、自分の言葉としてプレゼンテーションをまとめたことで、英作文を書くことに抵抗がなくなつたと考えられる。また、試行錯誤して英文を作成する過程で、きめ細やかなアドバイスや的確な言い換えのアドバイスをもらい、英語を書こうとする意欲が高められたと思われる。
- ◇「Q7 人前で話すことに対して抵抗がなくなった」については、「そう思う+どちらかというと思う」が80%に増加し、堂々と発表できる態度が身に付いてきた。これが英語を話そうとするときの心理的な壁を取り除くことにつながっていると考えられる。SGH 研究発表会でも、原稿に沿った発表ではなく、自分の言葉である程度自由に発表した研究発表もあった。
- ◇「Q8 社会問題に対する関心が高まった」については、「そう思う+どちらかというと思う」という肯定的な回答が80%であった。一つには、通常の授業とは違って、英語プレゼンテーション講座では様々な国籍、社会的背景、経験を持った外部講師による講座が実施され、講座の中で講師の経験や社会問題に関することにも言及されることが多い。このようなことに触発され、社会問題に関心を持つ生徒が増加したと考えられる。

2、3年生（令和元年度）アンケート結果



V. 課題研究の成果発表・普及

一年間の課題研究の成果を各講座生徒、各学年がそれぞれ成果を発表、普及した。

(1) SG 重点分野講座受講生徒：課題研究成果発表・普及

3年 SG 重点分野講座受講生が以下のさまざまな場面で発表、普及を行った。

近くは能勢町議会、広くは国内外から反響があり、高い評価を受けた。その助言、評価を課題研究内に生かすことができた

- ・能勢町及び近隣地域（豊能町）：ピースマーケット、とよのまつり、能勢中学校、能勢の高校を応援する会（総会）、森の中の講演会
- ・大阪府下：大阪府立豊中高等学校
- ・国内：全国 SGH 研究発表会
- ・大学：公立鳥取環境大学、大阪大学
- ・他県高校：島根県立隠岐島前高等学校、宮崎県立飯野高等学校
- ・国外：国立プトラマレーシア大学

ピースマーケット能勢 2019

令和元年 5 月 26 日（日）

◇場 所：浄るりシアター

※IV. (4)：海外からの留学生とのワークショップと校外研修 参照

大阪大学にてプレゼンテーション

令和元年 7 月 16 日（火）

◇場 所：大阪大学

※IV. (4)：海外からの留学生とのワークショップと校外研修 参照

豊中高校文化祭

令和元年 9 月 7 日（土）

◇場 所：本校 SS 室

遠隔システム「スムーズスペース」を使い、豊中高校で行われた文化祭に参加した。昨年モンゴルで実態調査を行った 3 年 SG 重点分野講座受講生 3 名が、モンゴルで訪れた NGO 施設「魔法の城」やモンゴルでの貧困対策についてプレゼンテーションを行った。「魔法の城」は虐待や貧困に苦しむ子どもたちを保護する施設である。その後、本校で採れたハチミツについて説明をし、豊中高校の保護者に購入を募った。この売上金を「魔法の城」へ寄付した。



森の中の講演会

令和元年 9 月 8 日（日）

◇場 所：能勢町荒木谷 ※IV. (4)：海外からの留学生とのワークショップと校外研修 参照

能勢高校文化祭

令和元年 10 月 5 日（土）

◇場 所：本校

能勢高校・豊中高校能勢分校の文化祭において、3年 SG 重点分野講座・2年 GS 課題探究重点講座受講生が体育館でのオープニングで3年生3名はマレーシアの調査報告を2年生4名はドイツの調査報告のプレゼンテーションを行った。廊下ではSG・GSの活動報告や能勢高校に来た長期・短期留学生の紹介を掲示した。



◇ 場 所：公立鳥取環境大学

※IV.(5)「外国語教育」の取組み 参照

「能勢の高校を応援する会“町ぐるみ応援団”」 総会

◇ 場 所：淨るりシアター小ホール

令和元年 10月26日(土)

町内外から 100 名ほどが参加する中、『能勢の高校を応援する会“町ぐるみ応援団”』の総会が行われ、3年 SG 重点分野講座、2年 GS 課題探究重点講座受講生が参加した。

3年生は8月に行ったマレーシア海外実態調査報告、2年生は能勢町・能勢分校連携ドイツ視察報告を行った。ドイツ視察報告の前には、視察団団長の能勢町長から視察の目的や視察に至った経緯などのプレゼンテーションがあり、生徒発表がより分かりやすいものとなった。

また、SGH 一期生の関西学院大学生である能勢高校卒業生が、SGH での経験がいかに大学生活で生かされているかを語った。後半では能勢分校とともに歩む能勢町の将来を考える「未来フォーラム」のグループディスカッションが行われた。様々な立場の人たちの中で、高校生たちも積極的に議論に加わった。能勢に高校があることが、地方創生において大きな役割を果たす事が参加した方々の中で再度確認された。



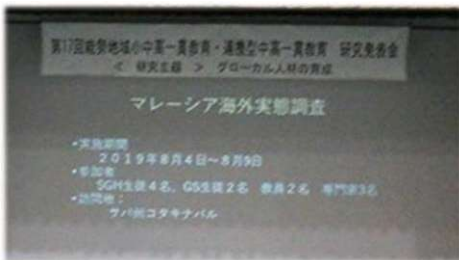
能勢高校 SGH 中間発表会

令和元年 11月1日(金)

◇ 場 所：ささゆり学園

第 17 回能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育研究発表会の第一部において、令和元年度 SGH 中間発表会および、ドイツ視察報告を行った。

まず、3年 SG 重点分野講座受講生 4 名と 2年 GS 課題探究重点講座受講生 1 名が 8 月に行ったマレーシアでの実態調査報告を英語と日本語で行った。テーマは『経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊～』である。次に、9 月に関西テレビ「報道ランナー」で能勢分校生の取組みが特集された際の VTR を放映した。タイトルは『バイオマスで町の活性化を 手つかずの森林利用 再生可能エネルギーに大阪の高校生が挑戦』である。次に、9 月に能勢町と連携で行ったドイツ・ブリロン市でのシュタットベルケ調査報告を行った。まず、視察研修に同行した能勢町の矢立政策推進課係長より報告があった。その後、2 年生 4 名が英語と日本語で発表を行った。テーマは『能勢版シュタットベルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生～』である。その後、町長をはじめ運営指導委員の方々、指導講師である乾先生より講評をいただき、閉会した。



とよのまつり

令和元年 11 月 9 日(土)・10 日(日)

◇ 場 所：豊能町西公民館

2 日間にわたって隣町、豊能町で開催された「第 9 回とよのまつり」文化展に 3 年 SG 重点分野講座受講生 3 名が参加し、本校の SGH・GS 活動について報告活動を行った。

昨年と本年度の海外実態調査で行った、モンゴル、マレーシア、ドイツについての写真を中心にパネル展示を行った。次々と来場者があり、説明に熱心に耳を傾けてもらい、多くの質問があった。

同じ会場で、豊能町にあり、本校とも交流のあるオイスカ関西研修センターのブースを訪問した。



SGH 全国高校生フォーラム I N 東京

令和元年 12 月 22 日(日)

◇ 場 所：東京国際会議場

全国の SGH の生徒が集まり、これまで各校で課題研究してきた内容をポスターにまとめ英語で発表を行った。本校からは 3 年 SG 重点分野講座生 2 名が参加した。

テーマは「Economic Development and Environmental Destruction ~Oil Palm Plantation and Deforestation~」（経済発展と環境破壊～オイルパームプランテーションと森林破壊）で、持続可能なパームオイル生産には何が必要か、また消費者である私たちに何ができるかを発表した。会場には本校の外国語指導員のダボ先生も駆けつけ、発表の直前まで英語の発音や声の大きさなどのチェックと指導を受けた。

各校の発表に対し審査員による評価が行われ、本校は、「課題設定」について特に高い評価を受けた。また、発表後に行われたグループ別の英語ディスカッションで、能勢紹介や能勢町の地方創生の話が注目を集め、他高校生に能勢高校の活動を強く印象づけた。

様々な地域の高校生が SGH 課題研究の成果を持ち寄り発表することで、自分たちのこれまでの SGH 活動の成果を客観的に見つめ直す良い機会となった。



令和元年度能勢高校 SGH 研究発表会

令和 2 年 2 月 15 日(土)

◇ 場 所：浄るりシアター

※V. (2) 令和元年度 能勢高校 SGH 研究発表会 参照
※成果物は巻末 参照

■ 遠隔ネットシステム交流 ■

遠隔ネットシステム「スムーズスペース」を使い、3 年 SG 重点分野講座受講生や 2 年 GS 課題探究重点講座受講生が、SGH や継承事業の課題研究発表や交流会を行った。

● 令和元年 7 月 8 日(月)、10 月 24 日(木) 島根県立隠岐島前高校

『熱中・夢中の作り方』をテーマに、白熱した議論を交わした。

● 令和元年 9 月 7 日(土) 大阪府立豊中高等学校文化祭

※V. (1) SG 重点分野講座受講生徒：課題研究成果発表・普及 参照

● 令和元年 9 月 11 日(水) GS 課題探究重点講座 山内光貴氏のプレゼンテーション

※ii. (2) GS 課題探究重点講座 参照

● 令和元年 10 月 17 日(木) 大阪府立豊中高等学校

3 年 SG 重点分野講座生 2 名が英語でのプレゼンテーション交流を行った。お互いより効果的なプレゼンテーションにするために意見交換を行った。